

# 新建築あいち

## 2026.春合併号

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ (2022年4月～)

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

### ■ 2026年 愛知支部総会 報告

3月14日(土)の午後、快晴の中、「愛知支部総会」が無事に終わりました。

コロナ禍も終息し、気軽にリアルに集まることができるよう日常が当たり前のようになってきています。

今回の総会議案でも議論がされましたが、コロナ禍を過ごしてみて、社会での仕組みが変わったこともたくさんあり、良い方向に変わったことや逆に悪い方向への流れが進んでしまったことなども、生活をしていく上で、たくさんの変化が皆さんの生活の中にもあったような気がしています。

愛知支部では、総会の議論のテーマを「“集まる”という基本に戻り、顔を見て話し合おう」と掲げました。コロナ禍前に参加して頂いた、新しい会員の皆さまで、コロナ禍に活動ができなくて、集まれなくて、参加出来なくて、退会された方がたくさんいました。また、この機会に仕事を転職したり、退職したり、引退したりして、収入が減り、会費の負担などもあり、退会された方もおられました。

愛知支部の活動が縮小してしまい、会員の皆さまには、ご迷惑をお掛けしたと思っています。今大会期は、幅広い企画を充実させながら、中部ブロックや他団体との協働、基準法改正による問題など、専門家としての住まい手や住民に寄り添い、会員同士の交流を高める活動をしていきます。

そのような中でも、変化し続ける建築業界の中で、仕事をしながら、「新建活動」を少しずつでも前向きに進めていけたことが大切だと感じています。愛知支部に新しく参加して頂いた皆さまとも協力をしながら、また、全国の新建会員の方々とも繋がりながら、建築業界をより良くしていくために、今後も「新建活動」前進していきたいと思えます。

いつ来るかわからない、南海トラフ地震への対策や能登半島地震の支援活動、中東情勢による、建築業界全体の材料値上げや遅延問題など、様々な事でも、支部の皆さまと情報交換をしていながら、この大変な時期も乗り越えていけるように、気軽に相談ができる仲間づくりが必要だと感じています。別添えて支部総会後に修正をしました、「総会決議」を添付しますので、内容に対してのご意見や感想がありましたら、是非、率直なご意見をよろしくお願い致します。

(愛知支部事務局長 甫立)

※『建築とまちづくり』誌 No.563(2026 May)5月号、P39の新建のひろばに「仕事を語る会」の詳細報告が掲載されています。ぜひご一読ください。



## ■ 緑綬褒章と生活資本

### ～居住福祉と生活資本の構築(185)

岡本 祥浩

4月29日と11月3日の春秋に褒章が授与される。今春は637名が受賞された。緑綬褒章が「長年にわたり社会に奉仕する活動(ボランティア活動)に従事し、顕著な実績を挙げた方」(37名)に授与された。県内では「肢体不自由者ガイドヘルプ 渋茶倶楽部」(豊橋市)と「竹まごころ会」(豊田市)の二団体である。「肢体不自由者ガイドヘルプ 渋茶倶楽部」の活動が「生活資本の構築」を想起させたので振り返りたい。

#### 肢体不自由者ガイドヘルプ 渋茶倶楽部

「渋茶倶楽部」は車いす利用者の生活支援ボランティアが浸透していなかった1997年に豊橋市社会福祉協議会のガイドヘルプ講習会の受講生が設立したという。「お茶を飲みながら語れるような仲間」との思いと「体の不自由な方を青空の下へ」というスローガンを掲げ、リフトカーによる外出支援や肢体不自由者の車いすでの外出支援活動などを展開している(「車いすでの外出サポート」2026年4月28日「中日新聞」、「どすごいネット」)。

買い物や墓参りの送迎、筋トレのおもりの交換、施設入居者の「マクドナルドで昼食を摂る」に付き添ったり、花見や花火を企画したりするなど生活の質向上に心がけているという(「生活の質上げ支援」2026年4月28日「朝日新聞」)。

#### 日常生活支援事業

社会福祉協議会の提供している「日常生活自立支援事業」を受け、認知症や加齢による判断能力の衰えを抱えながらも自立した在宅生活を継続している者もいる。「日常生活自立支援事業」の主な支援内容は、福祉サービスを利用する契約や支払いなどの援助、日常的な金銭管理、通帳や証書類の保管で必要な支援を組み合わせることができる。この事業は生活支援員が定期的に自宅を訪問して実施するために、当事者の異変や変化に気づきやすく、早期に適切な対応ができるという意義もある(「金銭管理や契約 社協がサポート」2026年4月11日「読売新聞」)という。

#### 生活資本

さて、生活資本とは生活を実現させる資源や仕組みであり、「住宅」+「居住地域の生活を支える資源」+「居住実現能力」(資源や仕組みなどから生活を実現させる力、資金も含む)の総和である。事故、怪我、病気、生まれつき、加齢などで身体機能が低下したり、定年退職などで収入が低下したりして生活を実現できなくなった場合、何らかの手段や仕組みで低下した「居住実現能力」を補って生活を維持しなければならない。今回紹介した事例では前者は「肢体機能の低下」にガイドヘルプというボランティアで補った、後者は認知症や加齢による判断力の低下を生活支援員による支援で補った。こうした外部からの支援を受け入れられる住宅や居住地域が居住福祉の基盤となり、それらの整備が必要なのである。

(中京大学教授、新建会員)

# 歴史から見た町名 (十二)

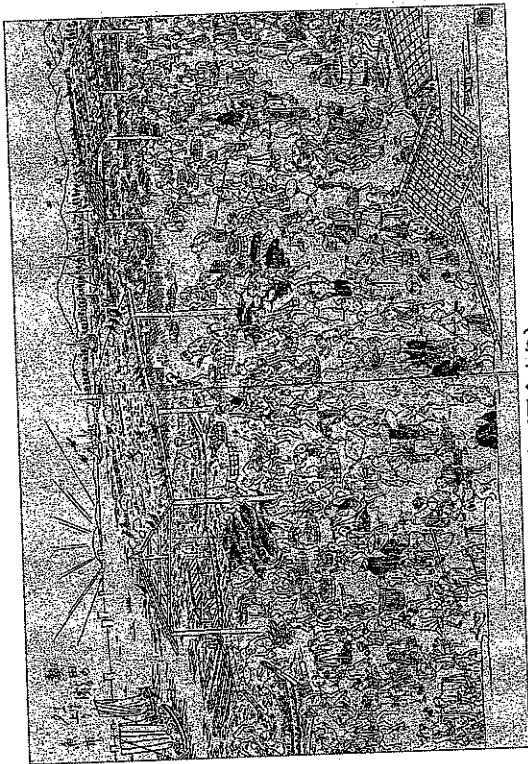
## 木之免町 (きのめちよう)

(熱田区)

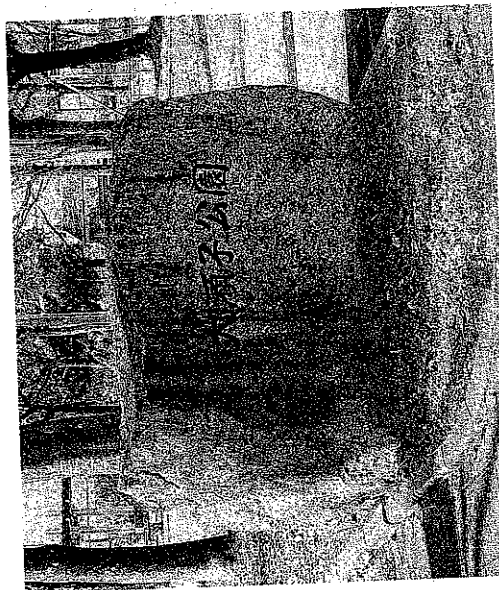
熱田神宮の南西、堀川に接する「木之免町」は江戸時代からの町名で、かつては「木ノ免町」または「木ノ目町」とも記されていました。もともと海であった所を埋め立てて生まれた土地ですが、熱田社の祝詞師、田島丹波守の所有となっていました。田島氏はここから毎年熱田社の神事にあわせて、神事に必要な薪を買っていましたが、元禄元年(1688)の検地の頃から、薪に変わって米を納めることになりました。本来は薪を納めるものを、これを免じて米を納めることになったことから、「木ノ免」と呼ぶようになったと云われています。明治40年までは、愛知郡熱田町大字木ノ免と呼ばれていましたが、この年名古屋市に編入

されたことにより熱田木ノ免町と呼ばれました。昭和12年に行政区の改変により熱田区木之免町となり現在に至っています。

木之免町は、海の幸にめぐまれていたため、古くから隣接する大瀬子町とともに魚介類の売り買いが行われていました。織田信長が清須に城を構えていた頃には、ここから毎日清須の城下に魚が運ばれていたとも云われています。寛永年間(1624~1644)に魚市場がつくられ、代々尾張藩の用達を務めていました。魚市場では毎日、朝・夕2回市が開かれ、近国・遠国から多くの魚貝類が集められ、売り買いが活発に行われていました。この市場は昭和19年に熱田西町に作られた市営中央卸売市場へ移転したため、現在ではこの市場の跡地は大瀬子公園となって、かつての活気のみちた魚市場の面影は全く見る事ができなくなりました。



▲魚市場のにぎわいの図(尾張名所図会より)



▲かつての魚市場跡 大瀬子公園

## ■ 新建愛知支部 2026年4月 支部幹事会だより

4月15日（水）19：00～21：00（リアル&オンライン）

参加者／入谷、奥野、黒野、中森、福田、甫立

- (1) 3月14日（土）午後に愛知支部総会を開催しました。野田明宏さんに新幹事をお願いしました。
- (2) 4月11日（土）全国幹事会がオンラインで開催されました。中森・甫立が参加しました。
- (3) 中東情勢による、資材価格の上昇や受注停止のメーカーなどの情報を話し合いました。
- (4) 4月からの建築基準法の改正などについての意見交流会、勉強会を開催しようと思います。
- (5) 皆さまから、企画・見学会案を募集します。楽しく勉強と交流のできる企画をつくりませんか？

今後の幹事会は、5/18（月）、6/17（水）、7/15（水）午後7時で日程の確認をしました。



### ■ 第37回「愛知サマーセミナー2026」に新建愛知で講座参加の申込みをしました。

今年は、7月18日（土）～20日（月・祝）に、学校法人同朋学園、同朋大学・同朋高校、名古屋音楽大学、名古屋造形大学にて開催されます。

講座のタイトルを「南海トラフ」×「住まいの防災学」として、南海トラフ地震の予測映像と、自分の住んでいる所の地域の災害リスクやハザードマップの読み方、普段過ごしている自宅の室内でのセーフティガイドなど、「いつかやろう」を「今」に変える、建築士が語る住まいの防災対策を学びます。

7月18日（土）の午後の時間で、80分間の1コマですが、申し込みをしています。

詳しい日時や開催会場が決まりましたら、支部の皆さまへご報告をさせていただきます。

※その他の講座にもご興味のある方は、「愛知サマーセミナー2026」で検索をしてみてください。



### ■ 愛知支部事務局・財政からのお願い

新建会費『2026年前期分』の請求を2月上旬にお送りしました。

2025跡期末納の方には、2026年前期分と合わせて請求させて頂いています。

新建会費は、前納制となっていますのでご協力よろしくお願ひします。

※振込手数料は、各自でご負担をお願いします。

長野県阿智村 富士見台  
7月が見ごろの ササユリ  
(2025年撮影)

